
寝て、起きたら

葵 景子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寝て、起きたら

【Zコード】

Z7920A

【作者名】

葵 景子

【あらすじ】

未来の自分とは
？？どんな人だったのか？？

葵 景子、初作品です。

皆さんに読んでもらえたら感激です。
少し微妙な言い回しがあるかもしませんが、気にぜずに読んで下さい。
お願いします。

私は高校生。日サロで肌をガンガン焼いて、化粧つ氣たっぷりの女子。

目覚めたら、首が痛かつた。
体は重く電車で揺れている。

真っ黒な肌、パサパサの髪の毛、キラキラのマニキュア、極め付け
は、あらわにした太ももに、あまりにも短すぎる丈のデニムのスカ
ート。それはまるで、下着が見えそなくらいの代物だった。
これらは私の大事な一部。

それだけが今までの私の大事なものだった。

しかし、今、隣に座った人を見て、自分の価値の低さを思い知った。
綺麗で艶のある髪、色白でほんのりと紅い唇。

とうてい真似できないような雰囲気。

私があまりにも視線を飛ばしていると、女人はちらとこちらを見
て、少しばにかんだ笑みを見せた。

いい香に酔いしれていたら、女人が電話で何か話しているのがわ
かつた。

「だから、こんな大金は受け取れないでしょう。お兄様もよく言い

聞かせて下さいよ。」

と。お兄様と言つだけあつて、きっとお金持ちの令嬢か何かなのだろ。う。

そんな事を思いながら、また私は眠りについた。

起きたら、もう家から最寄りの駅に着いていた。

隣にいる若い女子高生を見ながら昔、電車で出会った人の事をつづら思い出していた。

ブルルルルルルルル。電話が鳴る。

「だから、お兄様、お金は引き取るよう言つて下さいな。」

あのときあつた人は、私の未来のビジョンだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7920a/>

寝て、起きたら

2010年10月11日01時34分発行